



## ～78回目の夏～ 『8月9日 長崎原爆の日』

今年も8月6日の広島に続いて、今日8月9日私たちのふるさと「長崎原爆の日」がやってきました。今日は「県民祈りの日」に合わせて、学習委員会の発表をはじめとした平和学習を進める予定でしたが、台風6号による不測の事態を避けるため、市内統一して登校日が中止となりました。学習委員会の取組は、始業式以降に実施するようにしています。

世界大戦を反省し、終戦の年の昭和20年(1945年)の秋に採択されたユネスコ憲章は、その冒頭で、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。」とうたっています。子どもたちの心の中に平和の砦を築くことができるよう、戦争や原爆、いじめや差別などについて学習を重ね、仲間づくり、思いやりや助け合う心が根付くよう生徒一人一人の心に平和の火を灯していきたいと思えます。

次の詩は、身動き一つできず病気に苦しんでいた清家直子さんが、自分にできることは何かと考え抜いて答えに行き着かれたことが記された詩です。「天から与えられた役目を果たすこと」は、「自分が人としていかに生きるべきかを深く考えること」であり、「自分ができることを実行すること」であると思えます。自分を一生懸命に生きる。そして、優しさや思いやり、温かさなどを兼ね備える。人として大切にしなければならないことだと思っています。8月9日にあたり、ご家庭でも話題としてお話しただければ幸いです。

なにかわたしにでも  
できることはないか

坂村 真民

『なにかわたしにでも  
できることはないか』

清家直子さんは

ある日考えた

彼女は全身関節炎で

もう十年以上寝たきり

医者からも見放され

自分も自分を見捨てていた

その清家さんが

ある日ふと

そう考えたのである

彼女は天啓のように

点字のことを思いつき

新聞社に問うてみた

新聞社からわたしの名を知らされ

それから交友が始まった

彼女は左手の親指が少しきくだけ

そこで点筆をくりりつけてもらい

一点一点打っていった

それから人差し指が少しきき出し

右手の指もいくらかずつ動くようになり

くりりつけなくても字が書けるようになり

一冊一冊と点訳書ができあがり

今では百冊を超える立派な点字本が

光を失った人たちに光を与えている

『なにかわたしにでも  
できることはないか』

みんながそう考えたら

きっと何かが与えられ

必ずひろい世界がひらけてくる

年中光の射さない部屋に

一人寝ていた彼女に

手紙が来るようになり

訪ねてくる人ができ

寝返りさえできなかつたのに

ベッドに起きあがれるようになり

あつたかい日はころころがって

座敷まで出ることができるようになり

ある日わたしが訪ねた折りなどは

日の当たるところでお母さんに

髪を洗ってもらっていた

どんな小さなことでもいい

『なにかわたしにでも  
できることはないか』と

一億の人がみなそう考え

十億の人がみなそう思い奉仕をしたら

地球はもつともっと美しくなるだろう

片隅に光る清家直子さん！

「株式会社 CherrySage」が協賛金を送りました。

現高校1年の生徒たちが  
得た利益を、ふるさと大村  
に還元するために市役所を  
通じて送っていたものです。

第71回 花火大会

8/2(土)・3(日)  
本まつり

1万1千円

大村市立玖島中学校(株)CherrySage